業　績　目　録（令和６年）

大学院科目名：医学生命倫理学

(A-b) 和文著書

1　瀬戸山晃一．遺伝子情報差別禁止法．がんゲノムペディア　77 のキーワードで理解するゲノム医療とゲノム研究．羊土社，東京：pp241-242, 2024.

2　瀬戸山晃一．ゲノム医療推進法．がんゲノムペディア　77 のキーワードで理解するゲノム医療とゲノム研究．羊土社，東京：pp243-244, 2024.

3　瀬戸山晃一．遺伝子解析研究の発展によるゲノム情報のプライバシーと遺伝子差別．生命倫理学概論．丸山マサ美編著．大学教育出版，岡山：pp148-167，2024.

4　杉岡良彦．第 4 章疾病の成り立ち及び回復過程 第 1 節「病変の発生原因」，第 2 節「病変の成立機序」，第 3 節「診断・治療・予防」．社会福祉学習双書 2025　第 14 巻　医学概論／保健医療と福祉．全国社会福祉協議会，東京：52-62，2024.

(B-b) 和文総説

1　瀬戸山晃一．遺伝情報のプライバシーと遺伝子差別の法規制．医学哲学・医学倫理　42:77-82，2024.

2　瀬戸山晃一．法科大学院における医事法・生命倫理と法の教育の現状と課題．年報医事法学:39: 24-40，2024.

3　瀬戸山晃一．法と生命倫理．看護をめぐる法と制度　第５版．平林勝政他編．メディカ出版，大阪:pp409-418，2024.

4　瀬戸山晃一．書評　甲斐克則編『臨床研究と医事法（医事法講座第 13 巻)』(信山社，2023 年）．医事法研究 9:189-204，2024.

5　杉岡良彦．医学部における人文社会科学教育の現代的意義――医学哲学の観点から．Studia Humana et Naturalia57 ： 51 - 60，2024.

6　大家慎也．書評　何が遺伝子差別を悪質にするのか、また遺伝子差別はいかにして防ぐことができるのかー池田喬・堀田義太郎著『差別の哲学入門』をもとにー.Studia Humana et Naturalia57 ： 61 - 70，2024.

(C-b) 和文原著

1　瀬戸山晃一．ゲノム医療推進法の成立と遺伝子差別禁止法制定に向けての法政治的問題の考察．法政論叢 60(1):97-114，2024.
2　杉岡良彦. 医療者と宗教者の原点としての「共苦」. 宗教と倫理 24:45 - 57，2024.
3　杉岡良彦. 人間の本質的な在り方としての依存――医学における依存の問題と自立神話からの解放．福音と世界 79(6)：6 - 11，2024.
4　杉岡良彦．苦悩する勇気と苦悩する人に寄り添う勇気 ――フランクルの観点から．福音と世界 79(2)：12 - 17，2004.

(D) 学会発表等

Ⅱ）シンポジウム、ワークショップ、パネルディスカッション等

1　瀬戸山晃一．法と倫理学者の立場から-卒前教育を中心に-. シンポジウム：臨床倫理の教育．日本臨床倫理学会　第 11 回年次大会．2024，東京.
2　瀬戸山晃一．ワークショップ企画責任者　ナッジ政策・実装上の意義と限界 - 環境行政と遺伝子差別を題材に．2024 年度日本法哲学会 学術大会・総会．2024，名古屋
3　瀬戸山晃一．ワークショップ企画責任者　法曹・医師養成教育以外での医事法や生命倫理教育の役割と意義. 第 54 回日本医事法学会研究大会, 2024，広島.
4　瀬戸山晃一．シンポジウム企画責任者　ゲノム医療推進のための遺伝子差別禁止の法整備をめぐる動向．第 36 回日本生命倫理学会年次大会. 2024，大阪.
5　東新川藤佳．米国遺伝情報差別禁止法(GINA)の法的問題・社会的課題を踏まえた日本に根差した遺伝情報に係る法制度モデルの提言．シンポジウム：ゲノム医療推進のための遺伝子差別禁止の法整備をめぐる動向．第 36 回日本生命倫理学会年次大会．2024，大阪.
6　中辻柚珠．ヨーロッパにおける遺伝子検査の規制および遺伝子差別の規制の動向．シンポジウム：ゲノム医療推進のための遺伝子差別禁止の法整備をめぐる動向．第 36 回日本生命倫理学会年次大会．2024，大阪.
7　杉岡良彦，渡辺昧比. ワークショップ　ヨーガ・医療・宗教．人体科学会第 34 回大会, 2024, 12 月 14 日．大阪

E　研究助成（競争的研究助成金）
　総額　850 万円

公的助成
　代表（総額）・小計 850 万円
　1　1　国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）社会技術研究開発事業 令和 4～7 年度
　　「公正なゲノム情報利活用の ELSI ラグを解消する法整備モデルの構築」の研究助成金額　850 万円